

臨床実習	臨床実習
------	------

《担当者名》各分野教員全員（臨床実習の各科の担当教員参照）

教授/千葉 逸郎 教授/三浦 弘子 准教授/松岡 紘史 講師/水谷 博幸 助教/植原 治

【概要】

臨床実習では、基本的診療についての知識、技術、態度について各科に分かれて学習したが、臨床実習では、それらの連携を重視し、包括的な歯科医療を実践する診療内容に重点をおき、歯科医師としての仕事の多様性を理解し、卒後の歯科医師臨床研修及び生涯学習のあり方を学修する。

【学習目標】

臨床実習で学習した各分野の基本的診療についての知識、技術、態度を統合し、包括的な歯科医療を実践するための知識、技術、態度を修得する。

歯科医師臨床研修及び生涯学習を行うために必要な根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based Medicine)の基礎を修得する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 }	包括的な歯科医療を実践する。	歯科クリニックでの一口腔内単位での包括的な歯科医療を実践する。	
120	包括的な歯科医療についての知識の整理、統合	臨床ゼミによって、包括的な歯科医療についての知識を整理、統合する。	
	EBM(Evidence Based Medicine)の基礎を修得する。	自験例について症例報告書をまとめるとともに、臨床的課題についてエビデンスを基に考察を加える。	

【評価方法】

臨床実習で課せられた課題（90％）と学外実習の課題（10％）の総合評価

【備考】

教科書：5年次までに使用した教科書、資料すべて

その他：PubMed (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>)、Minds(<https://minds.jcqhc.or.jp/>)

【学習の準備】

与えられた論文について予め調べる。（50分）

診療予定内容について、十分に復習をする。（60分）

パワーポイントを用いて発表資料を作製する。（60分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1．人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術を修得している。

DP2．「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

DP3．疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている。

DP4．歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力を身につけている。

DP5．チーム医療（保健と医療と福祉）において協調し建設的に行動できる態度と能力を身につけている。

【実務経験】

指導歯科医講習会を修了し、臨床研修指導歯科医の要件を満たす歯科医師が担当している。

【実務経験を活かした教育内容】

大学病院、歯科クリニックでの実務経験を活かし、歯科保健・医療・福祉等の分野で、高度に専門化した歯科医療において包括的な臨床的教育を行う。